

社会科 学習指導案

1 対象 第3学年4組 34名

2 日時 平成27年6月○日（○） 第5校時目（13：40～14：30）

3 場所 C棟3階・第2音楽室

4 単元名 「世界恐慌と日中戦争」

5 単元目標

太平洋戦争が発生したきっかけを経済の社会的混乱である「世界恐慌」、「昭和初期の我が国の世界恐慌に対する政治」、「日中侵略と戦時体制」の3つの視点から、軍部の台頭、戦争までの経過を理解する。

6 教材観

本単元は、「二度の世界大戦と日本」の中の小単元「世界恐慌と日本」にあたる。世界恐慌をきっかけに日本が中国侵略を開始し、それが太平洋戦争に発展することになったことを学習させたい。

「二度の世界大戦と日本」では、最終的に世界大戦を繰り返さないために必要な「国際協調」「国際平和」の意識・態度を育成することを目標としている。そのためにここでは第二次世界大戦が起きた原因を理解させる必要がある。

7 生徒観

略

8 指導観

この単元の指導にあたっては、「世界恐慌」、「昭和初期の我が国の世界恐慌に対する政治」、「日中侵略と戦時体制」といった3つの視点から太平洋戦争がなぜ起きたのかを推測できるような構成にしている。

その中で本時は、単元のはじめとして、世界恐慌により、世界的な不安が広がっていたことをイメージさせ、当時の社会の様子を知る上で重要な時間になっている。この大きな社会問題への各国の対策の違いが第二次世界大戦の引き金になる。

そのため各国がどのような対策をしたのかをただキーワードで覚えるのではなく、植民地を持つ国と持たざる国で対策が違うことを理解させ、それが第一次世界大戦の敗戦国であることにも気づかせる。このように歴史の結びつきを確認させると共に、日本が、どのような対策をするのかにもつなげる時間にしたい。

9 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	第一次世界大戦後の好景気の流れを踏まえて、世界恐慌に各国がどのような対応をしたのかに関心を持ち、日本が太平洋戦争を行った原因を振り返り、本時の内容以外を意識しながら追求しようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	日本が太平洋戦争を行った原因を「世界恐慌」、「昭和初期の我が国の世界恐慌に対する政治」、「日中侵略と戦時体制」といった3つの視点を基に色々な視点で考え、その結果や過程を表現している。
資料活用の技能	世界恐慌や満州事変、日中戦争時の国民生活の様子などをグラフや地図、写真から読み取ることができる。
社会的事象について の知識・理解	世界恐慌時に日本が行った対策により、日本国内で軍部が台頭することとなり、満州事変を引き起し、日中戦争へとつながることを理解する。またドイツのファシズムにより第二次世界大戦がはじまったことを理解し、二度の世界大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。

10 指導と評価の計画（全4時間）

小単元	時	主な内容	評価				
			関	思	技	知	評価規準
世界恐慌	1	○各国の世界恐慌に対する政策を理解し、国の背景と結びつける。 【本時】	○	◎		○	①ニューディール政策、ブロック経済、ファシズムを理解する。【知】 ②ドイツがブロック経済やニューディール政策を行えなかった理由を考えている。【思】 ③世界恐慌や各国の対策についてどのように対策したかに関心を持ち追求しようとしている。【関】
世界恐慌と日本	2	○日本の行動やドイツの行動が戦後の国際協調体制を崩壊させたことを理解している。				◎	国際連盟の脱退と再軍備化が世界平和とは逆の方向に向かっていることを理解する。

満州事変と軍部の 台頭	3	○資料や写真から日本人の海外に対する考え方を推測する。			◎	新聞資料から台湾の人々に対する考え方や中国に対する行いを読み取っている。
日中戦争と戦時下の 国民生活	4	○日中戦争時の国民の様子を理解し、今までの学習が太平洋戦争の引き金になったことを説明する。			◎	「世界恐慌」、「昭和初期の我が国の世界恐慌に対する政治」、「日中侵略と戦時体制」が太平洋戦争の引き金になったことを、3つを関連させて表現できる。

1 1 本時の目標

- 世界恐慌に対するアメリカの「ニューディール政策」、イギリス、フランスの「ブロック経済」、ドイツ、イタリアが新たに植民地を増やす必要があったことの3つを理解する。
- ドイツがブロック経済を行えなかったのは植民地がなかったこと、ニューディール政策を行えなかったのは借金を背負っていたことであることを理解し、それが第一次世界大戦の結果に関係していることに気づく。

時間	生徒が学習する内容	予想される児童(生徒)の反応や活動	指導上の留意点 (○)、支援の必要な生徒への手だて (☆)	評価の基準
導入 10分	・ 1枚の写真から世界恐慌をイメージする。	・ いつ、どこで、何をしているのかを考える。 形態＝ペアワーク 多くの人が失業したことに気づく。	☆前の提示だけでなく教科書 p.220を確認させる。 ○単語に分けて解説をする。 UNEMPLOYED ＝失業者	
本時のねらいを確認 ねらい「世界不況になって各国がどのような対策をとったのだろう」				
	世界恐慌とは何かを知る。	世界恐慌＝世界の大不況というイメージを持つ。	○前時の大戦景気について触れながら説明する。	
展開 1 20分	発問 不況とは何か？			
	・ 不況とは何かを知る。	・ 不況の仕組みについて流れを考える。 形態＝ペアワーク	○大まかな不況の流れをつかませるためゲーム感覚で飽きさせないように工夫。 ☆ペアで一つの答えを導く。状況によりペア以外との相談も促す。	
	・ 不況への対策にどのようなものがある	・ 物が売れない、反対の状況を書いた後、	○グループになったときにさらに良い答え	

	か考える。 ・各国の政策を知る。	何をすればそうなるかを考えさせる。 形態＝個別→ペアで共有 ・①アメリカのニューディール政策。 ②イギリス・フランスのブロック経済。③ドイツのファシズム。	が浮かべば書かせる。 ☆個別に机間指導。 ○あえて国を最初にかずにかえさせながら板書させる。 ソ連は次時で扱う。	
展開 2 15分	・ドイツの政策を考える。	・①、②を行えなかった理由を予想させる。	☆ドイツがどのような国であるかを思い出させる。	
やってみよう ドイツがニューディール政策、ブロック経済を実施できない（しない）理由は？				
	・ドイツがブロック経済をしなかった理由を考える。	・ドイツがブロック経済をしなかった理由を考える。 形態＝個別→グループ	☆個別に机間指導する。 【第一ヒント】 イギリスに十分あってドイツに不十分なもの 【第二ヒント】 この時代のドイツの状況 【第三ヒント】 教科書P221の資料	ブロック経済の背景に植民地の多さがあつたこと、財力に余裕がなかったことから考察している。 (B) ブロック経済の背景に植民地の多さがあつたこと、財力に余裕がなかったこと

			を、既習事項を踏まえて考察している。(A) ドイツがブロック経済をしなかった理由を考察できない。(C)
	ポイント ドイツ(イタリア)には植民地が少なく、財力にも余裕がない＝持たざる国。		
まとめ 5分	・本時を振り返る	振り返りシートに今日分かったこと、疑問点を書く。	学んだ内容をまとめて書いている。(B) 内容を踏まえ、疑問に思ったことを書いている(A) 振り返りに何も書いていない。(C)

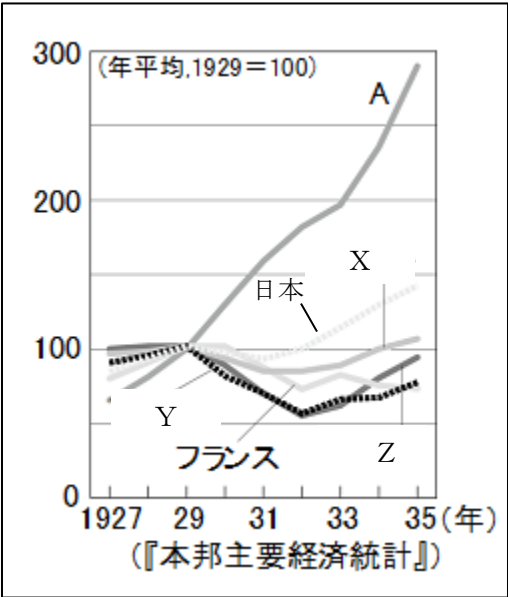
グラフ 1

定期テスト出題問題(予定)

【1】 次の各資料を見て、あとの問いに答えなさい。

1. 右の図からわかるように、多くの国で1929年以降に工業生産指数が低下している。

このように世界でアメリカの不況がきっかけで世界に不況が広がった出来事を何といいますか。（知）



2. 資料1は1の出来事へのアメリカ、イギリス、ドイツのいずれかの対策を示しています。

(1) X国のブロック経済とはどのような経済ですか、[植民地]という言葉を使い述べなさい。(知)

(2) Y国のような対策が行える理由をその国の背景と関連させて、説明しなさい。(思)

(3) Y国の政策を何といいますか。(知)

(4) Z国の空欄 (a) (b) に入る言葉を書きなさい。(知)

またそれが不足している理由を説明しなさい。(思)

(5) X～Zの中からイギリスに当てはまるものを選びなさい。(知)

(6) Z国では侵略のために民主主義を否定し、独裁政治を行いました。このような動きを何といいますか。(知)

資料1

X国	Y国	Z国
ブロック経済を行う。	公共事業を増やすことにより、雇用を増やす。	(a)、 (b)の不足のためX国やY国のような対策はできず、物を売る場所を侵略により、増やす。

3. グラフ1について

(1) Aに入る国名を書きなさい。(知)

(2) (1) と判断した理由をグラフを根拠に説明しなさい。(思)

グラフ2

4. 次のグラフ2は日本の貿易量の変化を表している。

これを参考にし、日本にも不況が広がったと考えられる理由をグラフを根拠に説明しなさい。

